

■田鎖綱紀 日本速記術を創始し、帝国議会開始とともに導入され、日本憲政史に多大な功績。伊藤博文から“電筆將軍”。

たくさりこうき

開国開港・・・1854＝ベリ一乗航翌年、盛岡の田鎖村で、代々南部藩家臣の田鎖仲高守の次男に生まれる。母は小笠原家の俊子。兄綱郎、後に妹道子。田鎖村には、源氏の末流を名乗る者が多く、別名に源綱紀がある。武術百般に達し、茶道をはじめ、風流の道にも通じていた父が、江戸の藩邸に行き留守がちだったため、藩の家老だった祖父田鎖左膳高行の教育を受けて育ち、祖父が藩士を集めて「武門要鑑抄国政伝」などを講義するのを傍聴し、後に、書き取ればと思ったのがそもそもであったと語る。

桜田門外変・・・1860＝6歳：その祖父が死去し、世の中が騒然としていくなか、

8月18日政変 1863＝9歳：

大政奉還・・・1867＝13歳：後継ぎの無かった田鎖本家を継いで、大広間御番士となり、家柄の老人らと仕事。たまたま来藩した幕臣で柳川春三の高弟内田五観に師事し英学を学び、同門の先輩諸氏について研鑽を重ねるうち、

明治維新・・・1868＝14歳：維新となるや、さらなる学問を、母の許しを得て、父が居残っていた東京に上り、旧藩主南部利敬が米人を招いて開いていた(共慣義塾)で学んだ後、

戊辰戦争終・・・1869＝15歳：大学南校に入学。各国言語に通じた宣教師フルベッキら諸外国人教師からさまざまな学問を学ぶうち、受持ち教官の紹介でスコットランド人英語教師の私邸を訪れ、その際も、発音のまま筆記することができないものかと考えたと言う。その後何度も訪問するうち、英文雑誌を見せられ、その中に奇妙な文字の羅列があり、フォノグラフィーというものを知る。海外へ飛躍すべく航海者をめざして、測量術を貪欲に学び、初の日刊新聞1870＝16歳：父が武家の商法で失敗して学資の途が絶たれ、南部家の家令を務めていた一条基緒方に寄宿、彼の推薦で、鉄道寮の外国人技師の助手となり、新橋～横浜間の鉄道敷設の測量作業に従事。

廃藩置県・・・1871＝17歳：一条の推薦で、工部省鉱山寮に出仕。鉱山師長の御雇外国人ガットフレイの下で製図作業などに従事して評価され、測量や製図の機器一式に、鉱山に関する書物まで贈られる。

学問のすすめ1872＝18歳：ガットフレイの命で秋田大葛金山へ向かい、招聘されたアメリカ人技師カーライルの下で働くうち、彼が母国との手紙のやり取りに使用していた不思議な文字に興味を持ち、それがフォノグラフィーの一種であることを知ると、彼から基本文字(記号)、その法則を教えて貰う。やがて、日本の言葉に適用できないかと思いつき、鉱山の仕事が終わった夜、その試みに没頭するも全く上手く行かないうち、

三つの内乱・・・1876＝22歳：不順な気候、不衛生な坑内で働くうち、肺炎になったカーライルが突然死去、心身は極度に衰弱して下山、変わり果てた弟子の姿に驚いたガットフレイの手配で九死に一生を得、東京で療養生活を送るなか、アメリカ人ホイットニーが開いた商業夜学校の講義を聞きに行った際、カーライルの方法で試しに速記をして意見を聞き、命を助けてくれた薬学博士ポッターにイギリスでの方法を問うなどして、光明を見出し、

大久保暗殺・・・1878＝24歳：わが国初の簿記の本「英和記簿法字類」を刊行する一方、縁あって入社した小学読本の創始者田中義廉の会社で(内外教育新報)の編集に当たると、取材に初めて手製の文字を利用してみるなど苦労を重ね、

琉球処分・・・1879＝25歳：田中義廉が死去、五代友厚らの支援で、神戸中国語学校を設立して校長に就任するもすぐに退職になり、

・・・1880＝26歳：東京に戻って麹町元園町に下宿、ついに覚悟して、速記術の完成に専念し始め、図書館通いしながら、

明治14年政変1881＝27歳：基本文字の創案に努め、形が出てきたところで、知人に話すも通じないなか、図書館で知り合った学生が、唯一人強く関心をもってくれ、彼が寄稿した記事が、

新体詩抄・・・1882＝28歳：自由民権運動の諸団体の機関誌に演説筆記が掲載される状況のなか、*{時事新報}に「日本傍聴記録法(ジャパニーズボノグラフィー) 榎の家元園子」の見出しで掲載されるや、来訪者が絶えない状況になり、勝手に講習会を開くと、多くの弟子が集まってきたため、日本橋の小林茶亭で正式な講習会を開催することにし、その第1回講習会が開かれた10月28日が、のちに日本速記協会によって「速記の日」と定められることになる。数は集まったものの、第一回卒業生で、後年速記で身を立てるに至ったのは四名だけであったが、

岩倉具視没・・・1883＝29歳：東京専門学校に在学中の北村透谷に筆記法を教え、透谷は神奈川県会の筆記に従事して収入を得ている。

秩父事件・・・1884＝30歳：矢野文雄が口述筆記させた「経国美談」の巻末に「速記法ノコトヲ記ス」の文を書いて、速記法の語が定着した年、早くも、最年長の若林ガン(王へんに甘)蔵と酒井昇造の速記で、三遊亭円朝の「怪談牡丹燈籠」が出版され、最も若い林茂淳は、工部大学校の(仮名の会)総会で、東大文学部長外山正一の演説「漢字廃すべき論」を速記、演説速記の嚆矢となるなど、言文一致への契機になる。第三回卒業生の丸山平次郎により、

内閣発足・・・1885＝31歳：前橋英語学校長として赴任するも、半年で辞めて帰京。口述で「源綱紀氏日本傍聴筆記法」を刊行、まだ若いのに貫禄十分ながら人懐こく洒脱、一度会えば誰でも懇意になる性格で、年齢の近い弟子たちとの関係は深く、以後、若林が後進の教育に努めるなど、弟子たちによって、速記はどんどん広がって行くようになり、自らの出る幕は無くなって行くも、放浪癖のある著名人たることは変わらず、

国民之友始・・・1887＝33歳：京都に行った時、受講生のなかにいた高女をてたばかりのハイカラ荒木基と強引に結婚し、居を構える。

初の対等条約1888＝34歳：ロンドンで第一回国際速記会議が開催されるも縁なく、長男一が誕生。その後も、妻子を放置して、各地で講習会等の開催を続けるなか、曾禰芳助主宰「菊花栽培法」の対談を若林らが速記し座談会速記の先駆。

帝国憲法発布1889＝35歳：

帝国議会始・・・1890＝36歳：長女通が誕生。第一回帝国議会にも間に合っ、実現までの早さ、速記が遺るのは日本だけという偉業を達成、言文一致を決定的なものにした。

足尾鉞毒始・・・1891＝37歳：本拠地を故郷盛岡に移す。丸山の速記で「速記的活算術」、

郡司千島探検1893＝39歳：信州長野で晩年のフルベッキと語り合い、日本の速記文字を初めて創ったという自負。「新式速記術」、

日清戦争始・・・1894＝40歳：「新式速記術例題詳解」など刊行、日本憲政史において多大な功績を挙げ、藍綬褒章を受け、

日清戦争終・・・1895＝41歳：「新式速記術例題詳解」(訂正増補2版)、

白馬会・・・1896＝42歳：*終身年金第一号となり、300円を下賜されたが、生活はいくぶん楽になるも、地方講習の旅、金遣いの荒さは相変わらず。伊藤博文から「電筆將軍」の称号を贈られ終生の称号を愛用しながら、

子規句歌革新1898＝44歳：さらに、本拠地を静岡に移す。

Bushidou・・・1899＝45歳：長距離電話の開通と同時に、{時事新報}が、ニュースの送稿に速記を採用、瞬く間に他社に広がる。

日露戦争始・・・1904＝50歳：「新式速記術例題詳解」(訂正増補6版)。

日露戦争終・・・1905＝51歳：この年、静岡中学を卒業した長男一が県知事の速記秘書に。上諏訪、身延山、鎌倉へ一年以上も旅行。

アヲキ創刊・・・1908＝54歳：長男一が貴族院速記課勤務に。{日本速記雑誌}に「シナ語速記術」「朝鮮語速記術」を発表し、この頃、日本に伝わったエスペラントにも熱中し、その普及宣伝に努めるなど、言語への関心は止まらない。

韓国併合・・・1910＝56歳：長男一が徳富蘇峰の{国民新聞}の速記者になったのを機に、東京牛込弁天町に根拠地を移し、

明治天皇没・・・1912＝58歳：相変わらず地方講習の旅をしながら、

大正政変・・・1913＝59歳：書き上げ出版した「大日本早書学邦語速記術」を見ると、早書学の確立こそ悲願であったことが分かる。

民本主義・・・1916＝62歳：門司に赴き、弟子とともに、{関門早書学会}を作り新式邦語速記術とエスペラントを教授、「エスペラント速記術」がロシアに知られ、ロマノフ家から招待されて、訪問の旅に出るも、国内各地で道草を食ううち、

ロシア革命・・・1917＝63歳：ザメンホフが病死した上、ロシア革命が起こり、苦労を耐え忍んできた妻基が死去して、ご破算に。

原敬首相暗殺1921＝67歳：

水平社結成・・・1922＝68歳：長男一が設立された日本青年館の専事になって破格の給料を得るようになると、放浪癖も極端になって、朝鮮、満州、蒙古の旅に出、その先々で講習会を開いて、

水平社結成・・・1924＝70歳：満州大連の長女通方に滞在、御成婚記念社会事業家表彰により勲六等瑞宝章。

円本時代始・・・1926＝72歳：ようやく帰国。

金融恐慌・・・1927＝73歳：JOAKから「速記演説」と題する趣味講演を放送、速記録も現存し、面目躍如たるものがある。

海軍軍縮条約1930＝76歳：東京上目黒へ移住するも、相変わらず周囲に迷惑をかけ続けて豪勢な生活を送るうち、

満州事変・・・1931＝77歳：

芥川直木賞始1935＝81歳：

精力絶倫で、晩年まで若く見られ、弟子たちには、百歳以上生きると豪語していたが、愛犬を連れて散歩に出た際、暴れるのを止めようとして転倒、以後、床に就いたまま、

健保+総動員 1938＝84歳：愛娘通が死去し哀惜に苦しむなか、全国一千余の弟子の誰一人からも看取られず、没した。

福岡隆「日本速記事始～田鎖綱紀の生涯～」